

エコアクション21

環境経営レポート

2024年度

対象期間 2024年2月～2025年1月



早川精機工業株式会社

発行年月日：2025年4月29日

改訂日：2025年9月15日

目 次

1. 組織の概要	3
(1) 事業者名及び代表者名	
(2) 所在地	
(3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先	
(4) 事業規模	
(5) 事業内容	
(6) 主要設備	
(7) 事業年度	
2. 認証・登録の対象組織・活動	3
3. 環境経営方針	4
4. 実施体制	5
5. 環境経営目標	6
6. 2024年度の環境経営計画に基づく取り組み内容	7-9
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価	10-14
8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	15-16
9. 環境関連法規などの遵守状況の確認 及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無	17
10. 代表者による全体評価と見直し・指示（2025年度）	17



1. 組織の概要

- (1) 事業者名及び代表者名
早川精機工業株式会社
代表取締役社長 白井 洋
- (2) 所在地
本社・工場 岐阜県岐阜市六条大溝1丁目13番1号
第二工場 岐阜県岐阜市六条大溝1丁目6番18
第三工場 岐阜県岐阜市六条大溝1丁目6番18
- (3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先
環境管理責任者 辻 孝典
担当者 池村 友宏
電 話：058-276-7555
F A X：058-276-7722
E-mail：t. ikemura@hayakawaseiki.co.jp
- (4) 事業規模
法人設立年月日：1963年3月20日
資本金：1500万円
主要製品出荷額：18億1千万円（2025年1月期）
従業員数：111人（2025年4月現在：派遣含む）
敷地面積：4,800.16 m²（延べ床面積6,303.27 m²）
※本社・工場、第二工場・第三工場合算
- (5) 事業内容
自動車部品、電気機器部品及び工作機械部品用ゲージの設計・製造
航空機器部品、建設機械部品、金型部品、工作機械部品、治工具及び
工業刃物の製造
- (6) 主要設備
- | | | | |
|-----------------|-----|---------------|-----|
| ・フライス盤----- | 9台 | ・旋盤----- | 39台 |
| ・マシニングセンター----- | 27台 | ・平面研削盤----- | 22台 |
| ・円筒研削盤----- | 26台 | ・ワイヤー/放電----- | 16台 |
| ・倣い研削盤----- | 22台 | | |
- (7) 事業年度
2024年2月～2025年1月

2. 認証・登録の対象組織・活動：全組織・全活動

対象組織：早川精機工業株式会社
活 動：事業内容の通り

3. 環境経営方針

経営理念

お客様に寄り添い、機能美を提供します。

モノづくりを楽しむことで、社員の幸せと企業の繁栄を実現します。

環境経営方針

早川精機工業株式会社は、金属製品製造工場として自然との調和を意識し、環境問題を認識すると共に、環境経営システムを構築・運用し維持することにより、継続的な地球環境に優しい企業経営を目指します。

1. 当社は生産活動において製品のライフサイクル向上など、環境貢献に留意した加工技術・開発を推進します。
2. 環境関連法規、条例及びその他の規制を遵守し、環境保全に取り組みます。
3. 環境経営システムを運用するに当たり、以下を目標に展開します。
 - ① 資源・エネルギーの消費を適正化し CO2 排出の削減に努めます。
 - ◇電力使用量の削減
 - ◇資源(ガソリン・LPG)使用量の削減
 - ② 廃棄物の削減と資源としての再生利用を促進します。
 - ◇一般及び産業廃棄物の分別の徹底
 - ◇リサイクル率の向上
 - ③ 水資源投入量の適正化に努めます。
 - ◇水使用量の削減
 - ④ 化学物質は法令に基づき適正に管理します。
 - ⑤ 自らが生産する製品に関する環境負荷の低減を図ります。
4. 本方針を全従業員に周知徹底を図り、環境経営システムの継続的改善を進めます。

2023年4月3日

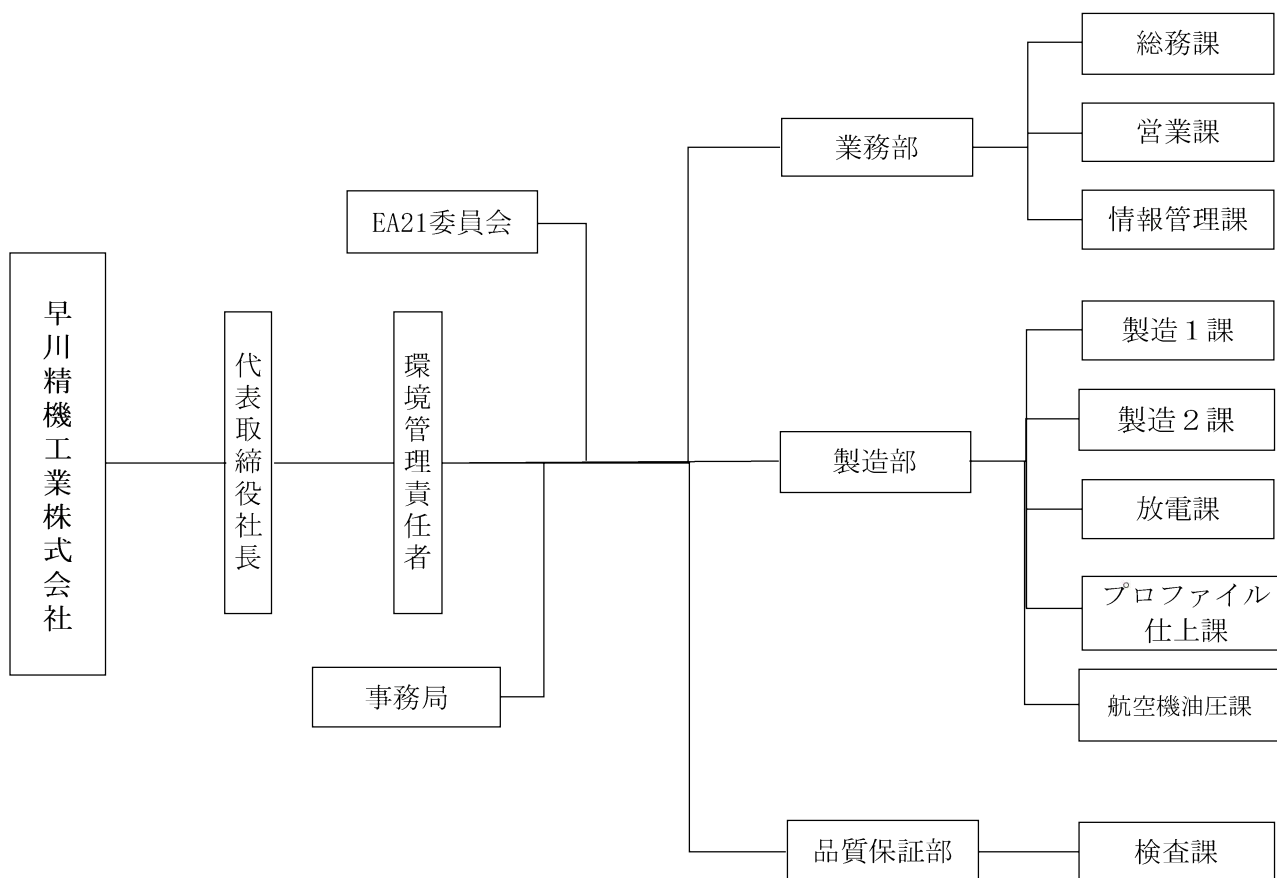
早川精機工業株式会社

代表取締役社長

白井 洋

4. 実施体制

実施体制図



役割・責任・権限

役割	担当者	責任・権限
代表者	臼井社長	環境方針作成、環境管理責任者任命、資源用意、システム見直し
環境管理責任者	辻取締役	EA21総責任者、EA21構築・運営、実績の総括
		システムの適合性、運用状況監査
事務局	池村課長	全体計画立案、文書作成・管理、環境教育計画・実施、EMS事務管理
EA21委員	部長・課長	EA21運用実施、実施状況確認・記録
一般	従業員	環境方針の理解、活動への積極的参加

5. 環境経営目標

- ① 環境経営目標は 2022 年度（2022 年 2 月～2023 年 1 月）を基準年度とし中期目標を設定する。
- ② 数値目標は基準年度の実測値から初年度 3.0%削減とし、次年度は 4%、3 年後に 5%削減を目標とする。
- ③ 化学物質の削減は PRTR 法対象化学物質を確認し、適切に管理することとします。
- ④ 自らが生産する製品に関する環境負荷の低減を図るため、製品ライフサイクルの向上等、VA 提案活動を推進し展開すると同時に、不具合品の低減を行う。

目標	2022 年度実績 基準年度	2023 年度 削減目標 (3.0%)	2024 年度 削減目標 (4.0%)	2025 年度 削減目標 (5.0%)
二酸化炭素排出量の削減 (t-CO2)	1,091	1,058	1,047	1,036
廃棄物排出量の削減 (t)	119.0	115.4	114.2	113.0
水使用量の削減 (m ³)	3,411	3,309	3,275	3,240
化学物質の管理	油等の適切な管理を行う	油等の適切な管理を行う	油等の適切な管理を行う	油等の適切な管理を行う
自らが生産する製品に関するもの	・ライフサイクル向上等の VA 提案 76 件 ・不具合の低減 不適合率 0.3%	・ライフサイクル向上等の VA 提案(前年比+ 10%) ・不具合の低減 不適合率 0.3%以下	・ライフサイクル向上等の VA 提案(前年比+ 10%) ・不具合の低減 不適合率 0.3%以下	・ライフサイクル向上等の VA 提案(前年比+ 10%) ・不具合の低減 不適合率 0.3%以下

- 1) 二酸化炭素排出量は、電力・ガソリン・LPG の使用量の合計とする。
- 2) 廃棄物等排出量は、一般廃棄物等と産業廃棄物等の合計とする。
- 3) 水使用量は上水使用及び地下水（井戸水）の合計とする。
- 4) CO2 排出係数は 0.382kg-CO2/kWh（2021 年度中部電力調整後排出係数値）で算出とする。
- 5) 化学物質の管理は PRTR 法の対象物質が含まれる油等を定期的に確認するなどの維持管理とする。
- 6) 削減目標 5.0%は水使用量の削減までとする。
- 7) 不適合率は「不適合品の損失金額÷売上金額」の割合とする。
- 8) 基準年度のライフサイクル向上等の VA 提案の件数は、2022 年度の実績件数ではなく、目標件数とする。

6. 2024年度の環境経営計画に基づく取り組み内容

1) 二酸化炭素排出量削減の取組み（取組期間：2024年2月～2025年1月）

① 電力使用量削減による二酸化炭素排出量の削減

活動内容	頻度
電力使用量削減の呼びかけ（啓蒙ラベル）	常時
不要照明消灯実施	毎日
不要換気扇 OFF	毎日
エアコン温度管理（集中管理）	使用時
エアコン室外機の散水	7・8・9月
エアコンのスケジュール運転の見直し	常時
センサー付照明の導入	常時
加工機オイルマチックの強制排熱	常時
エアコンフィルターの定期的清掃	毎月
コンプレッサーのエア漏れチェック	毎月
常時電源 ON の設備を明確化	常時

電力使用削減の呼びかけ



エアコン温度管理



室外機散水



② 資源使用量削減による二酸化炭素排出量の削減

活動内容	頻度
車両の点検整備の実施	毎月
エコドライブの実施（啓蒙ラベル）	適宜
アイドリングストップの実施（啓蒙ラベル）	適宜
ガス使用量削減の呼びかけ（啓蒙ラベル）	適宜

エコドライブカード



ガソリン使用量削減
（ハイブリットカーの導入）



2) 廃棄物排出量削減の取組み

活動内容	頻度
廃棄物の分別（場所で識別）	常時
産廃パトロール	常時
ウエスの投入量削減（啓蒙ラベル）	常時
超硬素材端材再利用	適宜

廃棄分別の徹底



ウエス投入量削減の呼び



3) 水使用量削減の取組み

活動内容	頻度
節水の呼びかけ（啓蒙ラベル）	常時
水漏れチェックの実施	年6回

節水の呼びかけ



4) 自らが生産する製品に関するもの

項目	活動内容	頻度
製品のライフサイクル向上の提案	VA 提案 (目標 39 件)	年度ごと
製品運搬において通い箱を使用	設置済	適宜
5S	5S 活動	毎月
不適合削減の為の提案	不適合率 0.3%以下	年ごと

製品通い箱



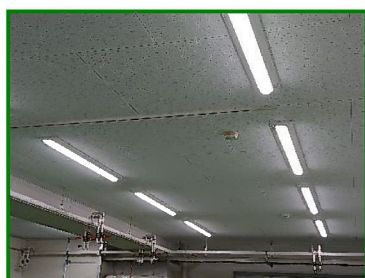
5) 化学物質の管理

活動内容	頻度
切削油、研削油の量の管理	毎月
油類の漏洩防止	常時

6) 環境保全活動

活動内容	頻度
コンプレッサーの点検	毎月
集塵機の点検	毎月
エアコン室外機の点検	毎月
フロン排出抑制法に関わる機器の点検	年 4 回
省エネ電球の使用	適宜
社内 LED 照明の購入	適宜

社内 LED 照明



7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価

7-1 環境経営目標の実績とその評価

環境への取り組み実施期間は、2024年2月から2025年1月までの1年間として、2022年度基準年の同月期間の目標に対して実測値による比較結果を評価した。

また売上変動を考慮し、参考評価方法として実測値に換算係数を掛けた値を換算値とし評価する。

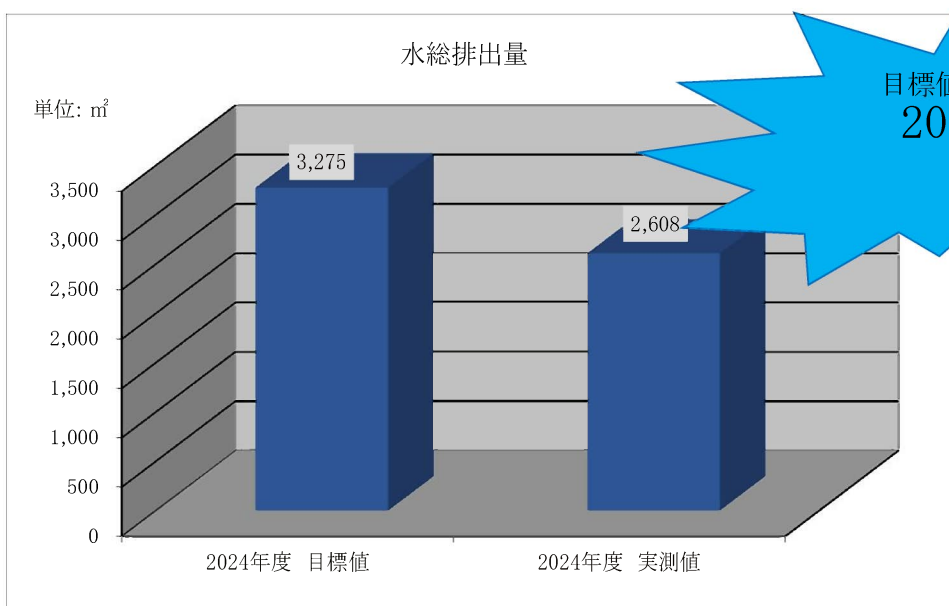
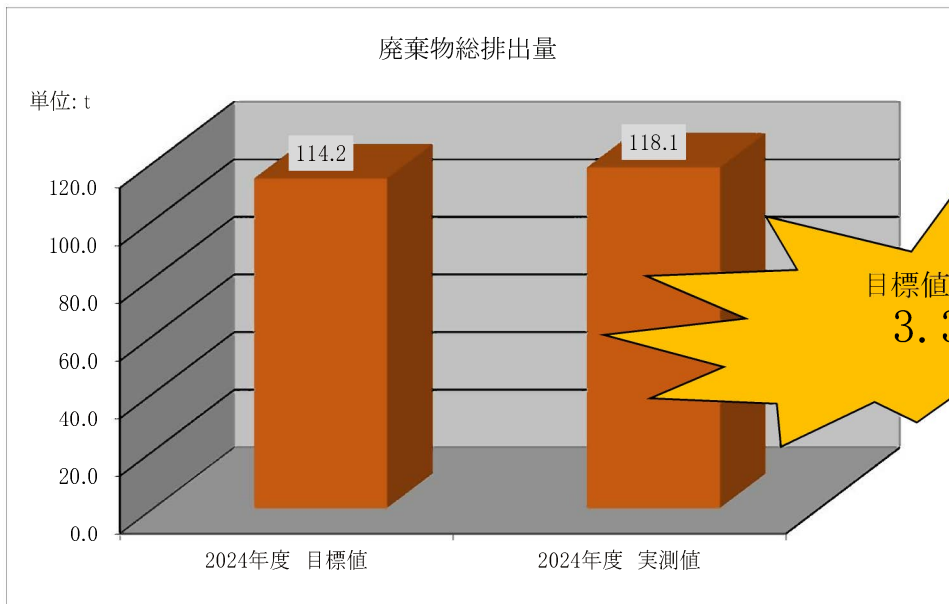
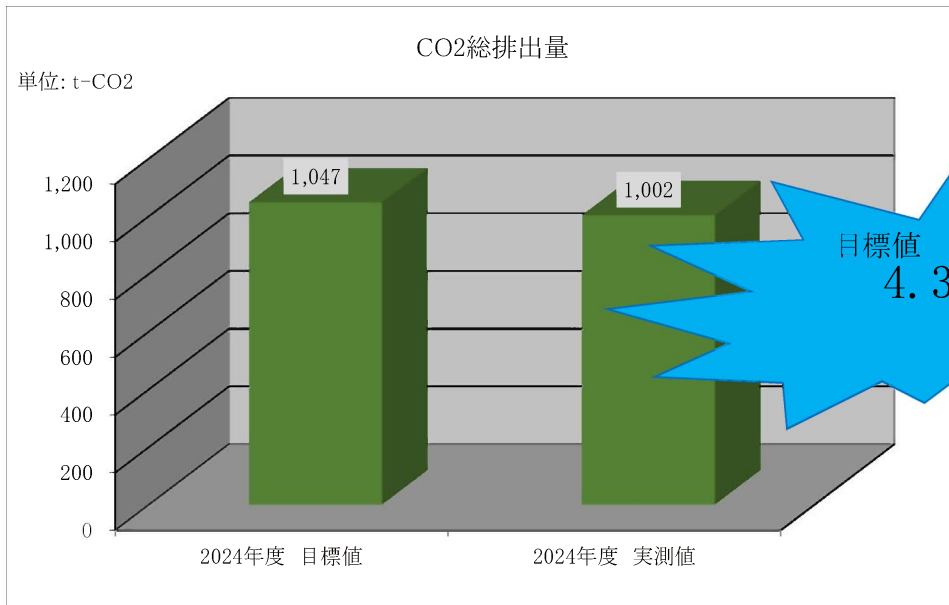
換算係数：基準年度売上÷実績年度売上 1,591÷1,814=0.8771[C] 参考

換算値の目標値増減：((実施年度の量<実測値>[B]×換算係数[C])÷(基準年度実績[A]×0.97)-1)×100

(注) CO2排出係数は0.382kg-CO2/kWh (2021年度 中部電力) で計算しています。

実施期間比較	2022年度基準 (22/2~23/1)	2024年度 (23/2~24/1)			実測値の評価		換算値の評価(参考)	
		目標値	実測値[B]	換算値(参考)	実測値の目標値増減(%)	評価	換算値の目標値増減(%)	評価
削減目標		4.0%削減						
売上金額(百万円)	1,591	1,814						
換算係数[C] 0.8771	基準年度 実績[A]	目標値	実測値[B]	換算値(参考)				
二酸化炭素排出量	総排出量 (t-CO2)	1,091	1,047	879	-4.3%	○	-16.1%	○
	電力	1,062	1,020	855	-4.4%	○	-16.2%	○
	ガソリン	26.0	25.0	23.1	5.6%	×	-7.4%	○
	LPG	3.00	2.88	1.12	-55.6%	○	-61.0%	○
エネルギー使用量	電力使用量 (kWh)	2,780,320	2,669,107	2,237,554	-4.4%	○	-16.2%	○
	ガソリン使用量 (ℓ)	11,136	10,691	9,964	6.3%	×	-6.8%	○
	LPG使用量 (kg)	1,033	992	375	-56.9%	○	-62.2%	○
廃棄物等排出量	総排出量 (t)	119.0	114.2	103.6	3.3%	×	-9.4%	○
	紙資源	2.40	2.30	1.89	-6.7%	○	-18.2%	○
	一般廃棄ごみ	1.80	1.73	1.24	-18.4%	○	-28.4%	○
	金属くず	42.3	40.6	36.0	1.1%	×	-11.3%	○
	廃プラ混合	21.7	20.8	17.5	-4.0%	○	-15.8%	○
	珪藻土	23.0	22.1	21.5	11.0%	×	-2.7%	○
	廃水	21.2	20.4	18.3	2.6%	×	-10.0%	○
	廃油	6.60	6.34	7.06	27.1%	×	11.5%	×
水使用量	総使用量 (m³)	3,411	3,275	2,287	-20.4%	○	-30.1%	○
	上水	1,142	1,096	1,079	12.2%	×	-1.6%	○
	地下水	2,269	2,178	1,209	-36.7%	○	-44.5%	○
化学物質の管理		適正	適正			○		
VA提案件数(件)	39件	39件	33件		-15.3%	×		
不適合率(%)	0.35%	0.3%以下	0.42%		-28.6%	×		

7-1-1 主項目増減グラフ



1) 二酸化炭素総排出量(目標値比:4.3%減)

● 電力使用量(目標値比:4.4%減)

電力使用量は、目標値より4.4%削減となった。2023年度に導入した省エネタイプのエアコンの導入効果で夏の電力量が抑えられたと考えている。基準年度と比較して売上金額が14%増加し、設備投資も増えている中で電気使用量を削減できたことは評価している。引き続き省エネ設備の導入や啓蒙活動による電力削減への意識づけを継続し節電につながる活動を行い、電力削減に努める。

● ガソリン使用量(目標値比:5.6%増)

ガソリン使用量は、目標値に対して5.6%増となった。営業車はハイブリット車両を導入し、ガソリン使用量の削減に努めているが、遠方の得意先への訪問頻度が増加したことがガソリン使用量の増加につながったと考えている。エコ運転の推進など使用量削減に努める。

● LPG使用量(目標値比:55.6%減)

LPGは食堂でのみ使用しているため、食堂管理者に、こまめな使用温度・時間管理など、適正な利用の維持といった啓蒙を行っている。目標値55.6%減と大幅な削減となったが、昼食の品目によってLPG使用量が増減する。引き続き必要な分だけ使用する心がけを継続する。

2) 廃棄物総排出量(目標値比:3.3%増)

● 紙資源(6.7%減)

昨年度に引き続き、基準年度と比較して新聞の購入量を減らしている。書類の電子化の推進、印刷物の削減の啓蒙により減少傾向となっている。引き続き書類の電子化、無駄な印刷の削減に努める。

● 一般廃棄ごみ(18.4%減)

プラ分別の影響もあり減少傾向となっている。従業員がコンビニ等で買ってきた弁当のゴミなどは、衛生上の理由もあり個人で持ち帰るようお願いしている。総量比率は小さいが、引き続き分別を徹底するなど削減に努める。

● 金属くず(1.1%増)

基準年度と比較して売上金額が14%増加となり、生産量増加の兼ね合いで廃棄量は増えている。100%リサイクルしている。材料のサイズや生産工程の見直しなど、削減できる方法を検討する。

● 廃プラ混合(4.0%減)

前年度のような工場の改修や5S活動による一時的な廃棄物の増加がなかった結果、基準年度よりも4.0%減となった。引き続き資源として再利用できるものなどを分別し、排出量の低減に努める。

● 珪藻土(11.0%増)

生産量増加に伴い珪藻土の使用も11.0%増となった。特に異常もなく平常運転での結果となる。水の交換頻度を増やすことで珪藻土の使用量を減らすことは可能だが、廃水の量が増えるのでバランスが重要だ。引き続きフィルターの手入れを定期的に行い、異常消費をコントロールすることで、廃棄量の削減に努める。

● 廃水(2.6%増)

集中濾過装置の水の交換は年に1回となっている。水交換時にタンクの水を極力減らすようにしているが、人が行っているため多少上下する。極端に廃水の量を減らすことは難しいと考えているが、異常がないか監視するように努める。

● 廃油(27.1%増)

pH値や匂いを元に定期的に油を交換している。交換のタイミングによって排出量が変わる。新規設備の導入や設備の廃棄に伴う設備レイアウト変更が基準年度よりも多く、設備内の油を回収する量が増加したが、目標値に対し27.1%の増加に影響している。定期的な交換や、複数年度での排出量を把握し、極端な排出量の増加がある場合は対応できるよう検討する。

3) 水使用量(目標値比:20.4%減)

水使用量は、目標値に対して20.4%減となった。エアコンを更新し、今年度は室外機への散水を中止した結果、7月・8月・9月の地下水使用量が大幅に削減された。上水の使用量は増加しているため、従業員に対しても引き続き節水意識を維持向上させ、効果をあげていきたい。

4) 自らが生産する製品に関するもの

切削油(第3石油類、PRTR法対象外)の油漏れもなく、適正に管理されていた。PRTR法対象化学物質に該当するキシレン・トリメチルベンゼンを含む灯油を少量使用しているが、適正な運用が行われていた。N,N-ジシクロヘキシルアミンを含むユシローケンを使用しているが、適正な運用が行われていた。

5) 化学物質の管理

VA提案件数は、目標件数39件に対して33件と84.6%の達成率となった。各部署で計画的にVA提案活動を行うよう働きかけをしているが、目標達成には至らなかった。環境負荷低減、生産性向上に向けて計画的に活動できるよう取り組んでいく。不具合低減活動において、不適合率目標0.3%以下のところ、0.42%となった。原因の23%がセットミスとなっているため、対策を徹底することで目標達成に近づけると思う。引き続き不適合数の要因と件数を監視し、不適合率の削減に努める。

7-3. 環境経営計画の実績

2024年度

環境目標	担当	取組事項	月度スケジュール/実績											
			取組計画: ○ 取組実績: ◎:実施 △:一部未実施 ×:未実施 年度評価: 実施できた ○ 実施できていなかった ×											
			2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減 基準年比 4.0% 減 担当責任者 清水・坂口	電力使用量削減の呼びかけ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		不要照明消灯実施	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		不要換気扇の電源OFF	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		エアコン温度管理	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		エアコン室外機の散水						◎	◎	◎				◎
		エアコンのスケジュール運転の見直し	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		センサー付照明の使用	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	製造部	加工機オイルマチックの強制排熱	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		エアコンフィルターの定期的清掃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		コンプレッサーのエア漏れチェック	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
業務部	常時電源ONの設備を明確化	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	車両の点検整備の実施	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	エコドライブの実施	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	アイドリングストップの実施	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
廃棄物排出量の削減	基準年比4.0% 減 担当責任者 大亀・福富	ガス使用量削減の呼びかけ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		廃棄物排出量の削減	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		廃棄物分別の徹底	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		産廃パトロール	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
製造部	ウエスの投入量削減	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	超硬素材の再利用	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
水使用量の削減	水使用量の削減 基準年比 4.0% 減 担当責任者 山田聡	節水の呼びかけ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		水漏れチェック	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
化学物質の削減	化学物質の管理 担当責任者 福富・大亀	製造部	切削油・研削油の量の管理	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		油類の漏洩防止	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
自らが生産するもの	改善活動 担当責任者 中谷	製造部	製品のライフサイクル向上の提案(VA提案)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		製品運搬において通い箱を使用	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		5S活動	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		不良削減の為の提案	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
環境保全活動	振動・騒音の低減 省エネ活動 担当責任者 中谷・山田聡	製造部	コンプレッサーの点検	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		集塵機の点検	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		エアコン室外機の点検	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		フロン排出抑制法に関わる機器の点検	◎		◎			◎		◎			◎	
		省エネ電球の使用	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		LED照明の購入	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
環境管理責任者評価			辻	辻	辻	辻	辻	辻	辻	辻	辻	辻	辻	

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

8-1.環境経営目標

- ① 環境経営目標は2022年度（2022年2月～2023年1月）を基準年度とする。
- ② 数値目標は基準年度の実績値から初年度3.0%削減とし、次年度は4%、3年後に5%削減を目標とする。
- ③ 化学物質の削減はPRTR法対象化学物質を確認し、適切に管理することとします。
- ④ 自らが生産する製品に関する環境負荷の低減を図るため、製品ライフサイクルの向上等、VA提案活動を推進し展開すると同時に、不具合品の低減を行う。

目標	2022年度実績 基準年度	2023年度 削減目標 (3.0%)	2024年度 削減目標 (4.0%)	2025年度 削減目標 (5.0%)
二酸化炭素排出量の削減 (t-CO ₂)	1,091	1,058	1,047	1,036
廃棄物排出量の削減 (t)	119.0	115.4	114.2	113.0
水使用量の削減 (m ³)	3,411	3,309	3,275	3,240
化学物質の管理	油等の適切な管理を行う	油等の適切な管理を行う	油等の適切な管理を行う	油等の適切な管理を行う
自らが生産する製品に関するもの	・ライフサイクル向上等のVA提案 76件 ・不具合の低減 不適合率0.3%	・ライフサイクル向上等のVA提案 件数（前期比+10%） ・不具合の低減 不適合率0.3%以下	・ライフサイクル向上等のVA提案 件数（前期比+10%） ・不具合の低減 不適合率0.3%以下	・ライフサイクル向上等のVA提案 件数（前期比+10%） ・不具合の低減 不適合率0.3%以下

- 1) 二酸化炭素排出量は、電力・ガソリン・LPGの使用量の合計とする。
- 2) 廃棄物等排出量は、一般廃棄物等と産業廃棄物等の合計とする。
- 3) 水使用量は上水使用及び地下水（井戸水）の合計とする。
- 4) CO₂排出係数は0.382kg-CO₂/kWh（2021年度中部電力調整後排出係数値）で算出とする。
- 5) 化学物質の管理はPRTR法の対象物質が含まれる油等を定期的に確認するなどの維持管理とする。
- 6) 削減目標5.0%は水使用量の削減までとする。
- 7) 不適合率は「不適合品の損失金額÷売上金額」の割合とする。
- 8) 基準年度のライフサイクル向上等のVA提案の件数は、2022年度の実績件数ではなく、目標件数とする。

8-2. 環境経営計画

2025年度

環境目標		担当	取組事項	月度スケジュール/実績												
				取組計画: ○ 取組実績: ◎:実施 △:一部未実施 ×:未実施 年度評価:実施できた ○ 実施できていなかった ×												
				2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	年度評価
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減 基準年比 5.0% 減	全部署	電力使用量削減の呼びかけ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	不要照明消灯実施		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
不要換気扇の電源OFF	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
エアコン温度管理	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
エアコン室外機の散水							○	○	○							
エアコンのスケジュール運転の見直し	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
センサー付照明の使用	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
化石燃料使用量の削減 基準年比 5.0% 減	業務部	車両の点検整備の実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
		エコドライブの実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
		アイドリングストップの実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
		ガス使用量削減の呼びかけ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
廃棄物排出量の削減	全部署	廃棄物排出量の削減	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
		廃棄物分別の徹底	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
水使用量の削減	全部署	節水の呼びかけ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
		水漏れチェック	○		○		○		○		○					
化学物質の削減	製造部	切削油・研削油の量の管理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
		油類の漏洩防止	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
自らが生産するもの	全部署	製品のライフサイクル向上の提案(VA提案)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
		製品運搬において通い箱を使用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
環境保全活動	製造部	5S活動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
		不良削減の為の提案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
環境保全活動	製造部	コンプレッサーの点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
		集塵機の点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
環境管理責任者評価	製造部	エアコン室外機の点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
		フロン排出抑制法に関わる機器の点検	○		○		○		○		○					
環境管理責任者評価	製造部	省エネ電球の使用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
		LED照明の購入	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				

9. 環境関連法規などの遵守状況の確認、及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

環境関連法令は下記表に当社が適用する法令等として取りまとめました。

No	環境関連法令等	サイトへの適用性	
		判断基準	遵守評価
1	消防法	少量危険物貯蔵	○
2	廃棄物処理法（廃掃法）	適正保管、収集運搬処理委託、委託契約書の締結、マニフェスト管理、マニフェストの交付状況報告	○
3	フロン排出抑制法	エアコン設置、簡易点検	○
4	家電リサイクル法	当該年度廃棄該当なし	○
5	水質汚濁防止法	油水分離槽・貯油施設	○
6	下水道法	油水分離槽・貯油施設	○
7	騒音規制法	空気圧縮機	○
8	振動規制法	空気圧縮機	○
9	岐阜県廃棄物の適正処理等条例	該当する	○
10	岐阜市地下水保全条例(地下水保全)	吐出口内径 50mm	○

・違反、訴訟などの有無 → 無

10. 代表者による全体評価と見直し・指示（2025年度）

今年度は、基準年度目標値 4%削減を掲げ活動しました。特に、エアコンの更新が功を奏し、夏場の電気使用量を大幅に削減できた結果、二酸化炭素排出量は 4.3%減となり、目標を達成できました。一方で、生産量の増加に伴い廃棄物等排出量は 3.3%増となりました。しかし、昨年度と比較すると排出量を抑えることができていると、今後のさらなる改善の余地があると考えています。水使用量については、夏季の散水を中止したことで地下水使用量が 36.7%減となり、上水と合わせても全体で 20.4%減と、こちらも目標を大きく上回る削減を達成できました。売上金額は前期が基準年度比で 12.5%増、今期が 14.0%増と順調に増加しています。これに伴い、売上金額をベースとした原単位での評価を適用すると、二酸化炭素排出量、廃棄物等排出量、水使用量のいずれにおいても目標達成という評価になります。

今後は、より実態に即した評価ができるよう、評価方法について改めて検討を進めます。特に、売上が減少した場合の評価方法についても模索していく必要があると考えています。

来期は、計画通り基準年度から 5%削減を目標に活動を推進していきます。2023 年度からの 3 ヶ年については、売上金額との傾向を注視しつつ、原単位での評価方法の確立に力を入れていきます。

引き続き、再生可能エネルギーの利用（太陽光発電・水力発電）、エネルギー効率の向上（古い設備の更新）、リサイクルや廃棄物の適切な処理（通い箱の活用、徹底したゴミの分別、水・油の適正管理）といった取り組みを強化します。加えて、生産性向上と従業員の働き方改革も積極的に推進してまいります。

世界的なカーボンニュートラルの潮流を踏まえ、二酸化炭素排出量の削減は企業の重要な責務であると認識しています。この分野における知識と理解をさらに深め、地球環境に配慮した企業活動を継続して実践していきます。

- ・環境経営方針の変更の必要性 → 不要
- ・環境経営計画の変更の必要性 → 不要
- ・環境経営目標の変更の必要性 → 不要
- ・実施体制の変更の必要性 → 不要